

川越の美術家たち…… KAZUMI NAKAMURA



存在の鳥 348 (チ+ハ+ワ+オ+ル) 2018-23 年 作家蔵

中村一美展 2023 10.21 sat ▶ 12.10 sun

■開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで） ■休館日：月曜日

■観覧料：一般600円(480円)／大学・高校生300円(240円)／中学生以下無料

*（ ）内は20名以上の団体料金 *身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をご持参の方、及びその介護者1名は無料

*「川越きものの日」にちなみ毎月8日、18日、28日に着物で来館された方は団体料金でご覧いただけます

*埼玉県民の日／11月14日(火)、川越市民の日／12月1日(金)および3日(日)は無料で観覧できます

●主催：川越市立美術館

●後援：朝日新聞さいたま総局、埼玉新聞社、産経新聞さいたま総局、時事通信社さいたま支局、東京新聞さいたま支局、日本経済新聞社さいたま支局、毎日新聞埼玉西支局、読売新聞さいたま支局、J:COM 東上・川越、テレ玉、FM NACK5



川越市立美術館
KAWAGOE CITY ART MUSEUM

中村一美展

抽象的な絵画を色鮮やかに描く中村一美(1956年生)はアジア、アメリカをはじめ国内外を問わず活躍する画家です。中村は千葉県に生まれ、東京藝術大学で戦後アメリカの抽象表現主義絵画を理論面から研究し、同大学院では油絵を専攻、1980年代初頭から本格的に絵画制作を始めます。

これまでに数々の展覧会に出品するほか、主な個展をセゾン現代美術館(1999年)、いわき市立美術館(2002年)、国立新美術館(2014年)で開催し、2015年には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。一方、後進の指導にもあたり現在は多摩美術大学教授を務めています。

本展は〈存在の鳥〉、〈破庵〉、〈聖〉の3つの作品シリーズから、近作および新作をご紹介します。現代絵画の最前線で活躍する中村の鮮烈な色彩とエネルギー溢れる作品を、20年以上居住していたゆかりの地、川越でご覧いただく絶好の機会です。

《関連事業》

●アーティストトーク

日時：11月3日(金・祝)、12月2日(土)
各午後2時~3時30分
*11月3日は手話通訳付き
会場：川越市立美術館 アートホール
話し手：中村一美(画家・出品作家)
費用：無料 *要本展観覧券
申し込み：不要

●トークイベント「中村一美の絵画を巡って」

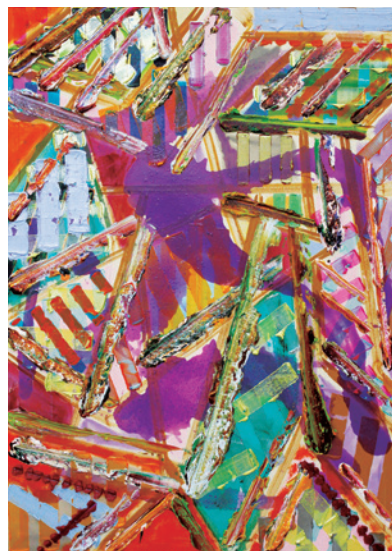
日時：11月12日(日) 午後2時~4時
会場：川越市立美術館 アートホール
パネリスト：中村一美(画家・出品作家)
松浦寿夫(画家・美術評論家)
山村仁志(東京都美術館学芸担当課長)
司会：担当学芸員
費用：無料
申し込み：不要

●担当学芸員によるギャラリートーク

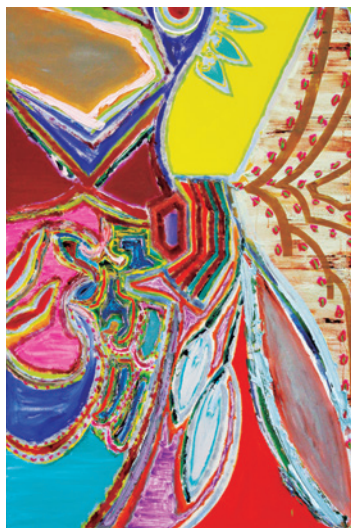
日時：11月23日(木・祝) 午後2時~
費用：無料 *要本展観覧券
申し込み：不要 *企画展示室前にお集まりください。



存在の鳥 364 (ハチクマ) 2021-22年 作家蔵



破庵 100 (蓬田岳-安政見聞誌) 2023年 作家蔵



存在の鳥 367 (ベニマシコ) 2022年 作家蔵



破庵 87 (鶴ヶ鳥屋山) 2022年 作家蔵



聖 34 (薬上菩薩) 2021年 作家蔵



破庵 62 (蝦夷岳) 2019-22年 作家蔵

■交通案内 《駐車場が狭いため公共交通機関での来館にご協力ください》

- 東武東上線・JR埼京線(川越線)「川越駅」から
 - 東口7番のりば 東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越市役所前」下車徒歩5分
 - 東口1・2・4・5・6番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
 - 東口3番のりば「小江戸名所めぐりバス」で「博物館前」下車
 - 西口2番のりば「小江戸巡回バス」で「博物館・美術館前」下車
 - 西武新宿線「本川越駅」から
 - 5番のりば 東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越市役所前」下車徒歩5分
 - 5番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
 - 「小江戸巡回バス」で「博物館・美術館前」下車
- *「川越市自転車シェアリング」も便利です(ステーション「博物館・美術館」)

